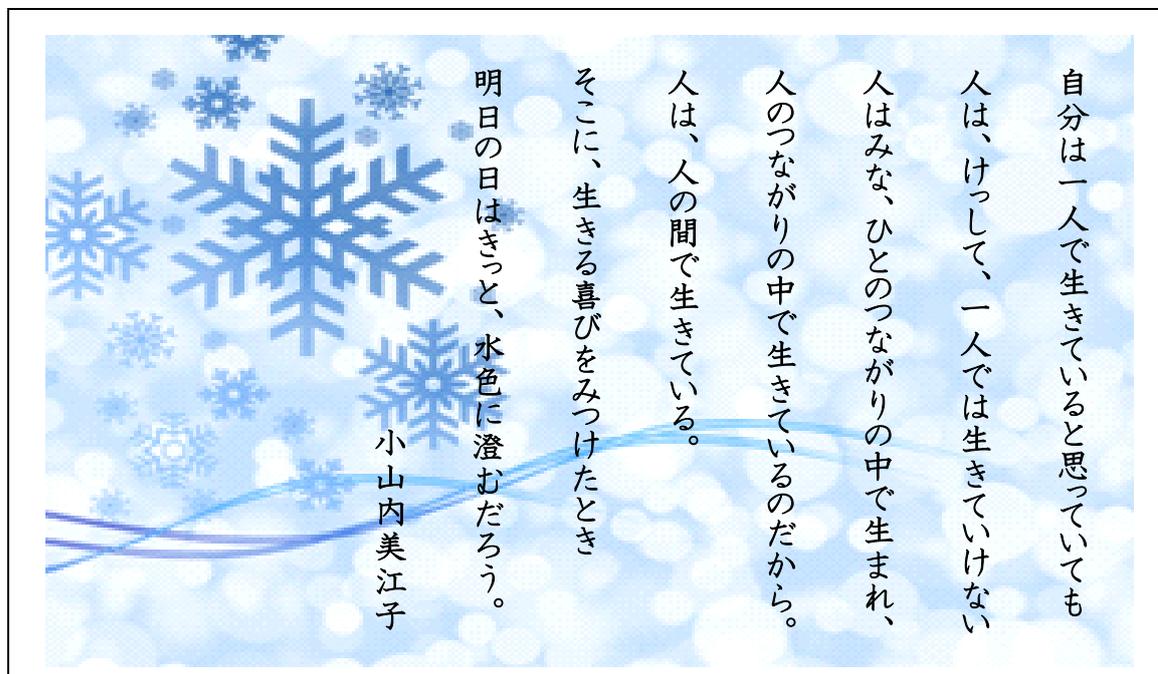


道徳便り



金沢錦丘中学校
平成28年12月22日



耕そう 自分の「心」

— 日々の道徳の授業から —

1年「裏庭でのできごと」の授業

◆資料について・・・昼休み、先輩に邪魔されることなく遊ぶことができる体育館の「裏庭」に、サッカーボールをもってやってきた健二、大輔、雄一。猫から、ひなのいる軒下の鳥の巣を守ろうとしたために、物置の天窓のガラスを割ってしまう。しかし、その後、事実を先生に報告しに行った雄一がいない間に、二人は、またガラスを割ってしまう。憤慨する雄一、気にとめない大輔、重い気持ちの健二・・・自分の行動の結果にどのように対処するか、ということを通して、自分と立場を置き換えて考える時間となりました。



◇生徒の感想より

* 健二は、先生が来た時に「2枚割れているうちの一枚は、自分がふざけていて割ってしまった」とごまかさずに言うべきだったと思う。そうしていれば、雄一も嫌な思いをしなかったし、健二自身ももやもやした気持ちにならなかったのではないかな。でも、悩んだ結果、正直に言おうとした健二はうそをつかずに誠実に行動しようとしていると思う。私も、もし間違った行動をしたら自分の行動に責任をもつ勇気を持ちたいと思った。



2年「加山さんの願い」の授業

◆資料について…ボランティアとは、いったいどういうことなのでしょう。訪問ボランティアを始めた加山さんは田中さん、中井さんというお年寄りを通してボランティアの本当の意味を考えていきます。相手に「すまない」という思いをさせてはいけないのだ、と気づいたとき、加山さんはボランティアを通しての真の人間同士の関わり合いのあり方を悟ります。実際にボランティア活動をしていらっしゃる市村絹江さんをゲストティチャーとしてお迎えし、社会の一員として、将来社会に奉仕していくとき、奉仕とはどのようにあるべきかを考える貴重な時間となりました。

◇生徒の感想より

- * 私が最初にボランティアに対して抱いていたイメージは、「誰かのために代価を望まずに行動すること」と思っていたが、今日の道徳で、「自分から価値を見だし、自分がしたいと思って行動する活動」という考えに変わった。人を思う気持ちが、自分にとって何かを得ることにつながるのだと感じた。
- * 今まで、私もボランティアに対して「してあげる」という認識があったかもしれないと考えました。また、加山さんは田中さんや中井さんの気持ちを考え、自分の誤った気持ちに気づけたのは、とても尊敬します。他の人の気持ちに気づくことはとても難しいけれど、私も相手の気持ちを考えて行動できるようになりたい。

3年「卒業文集最後の二行」の授業

◆資料について…「…私が今一番欲しいのは母でもなく、本当のお友達です。そしてきれいな洋服です」。小学校のときいじめた女の子が、綴った卒業文集の最後の二行です。女の子は、母を亡くし弟ふたりの世話をみています。父は魚の行商をやっています。いつもクラスメイトから「きたない」「くさい」「風呂に入れ」「近寄るな」といじめられています。いじめがどれほど卑怯なことか、人間として許せないことか…真剣に考えた一時間となりました。

◇生徒の感想より

- * いじめは、されたほうもしたほうも見ていた人も、後悔して心に傷を負ってしまう。そんなことは絶対に許されない。皆が平等に生きる社会にするために、自分自身も言葉の発し方に気を付けたりして思いやりがある誠実な人になりたい。
- * いじめた側は「私」のように何かきっかけがないと自分のしたことがどれだけ人を傷つけているか知ることができず、「これから」も過ごしていくと思う。しかし、いじめられた人は、忘れず、傷を負って「これから」を生きていく。同じ「これから」なのに、全く違う「これから」になってしまういじめは、本当に怖い。周りを止められる勇気が必要だ。



斜めの画が互いに支え合っている「人」、そして人と人との間の距離、語らい(コミュニケーション)を大事にする「人間」。手でかばいあうことをあらわす「友」。そして、何より大切なのは「命」。あと、一週間あまりで2017年です。来年も、みなさんが人を大切に、友を大切に、そして命を大切にする年であってほしいと願っています。

切り取り線

◇返信欄：感想等ありましたら、お子様を通じてお寄せください。

